

授業改善推進プラン 国 語〔小学校第4～6学年〕

昭島市立拝島第一小学校

学年等		項 目	内 容
令和4年度 第4学年	令和4年10月	学習に関する児童の実態・課題	○漢字学習は意欲的に取り組める児童が多い。 ▲児童によって漢字の定着に差がある。読み取る力、書く力、国語に対する学習意欲が低い。登場人物の気持ちの変化を読み取る力が弱い。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・筆者の主張を正しく読み取る力(説明文) ・学習課題に沿って登場人物の気持ちの変化を叙述を基に読み取る力(物語) ・文章を書くときに主語と述語を明確にして短い文章で書く。 ・大事なことを落とさずに聞く。
		具体的な授業改善の方策	・ICT教材を用いて、視覚的に分かりやすい授業展開をする。 ・学習計画を児童と共に作成する。根拠と理由を明確にして読み取らせる。 ・主語と述語を用いた文章作成の経験を多く積ませる。 ・静かになってから話す、メモを取りながら聞くようにする。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	○学習意欲を高めるために、ICTを用いた導入を工夫したり、センテンスカードを用いる工夫をすることでよい成果がみられた。児童が主体的に取り組めるような言語活動を設定することで主体的に取り組めた。叙述を根拠とし、考える力が少しずつ身に付いてきた。国語に留まらず、他教科でも振り返りなどの活動を取り入れ、書く力も身に付いてきた。 ▲大事なことを落とさずに聞くことには課題が残る。漢字の定着には個人差がある。
令和5年度 第5学年	令和5年10月	学習に関する児童の実態・課題	○文中から、自分の考えの根拠を見付けることができる。 ▲文章を書くことに苦手意識をもち、自分の考えや感想を文章で表現することが難しい児童がいる。 ▲話したり、聞いたりする中での語句と語句のつながりを理解することが難しい。 ▲目的に応じて、複数の資料を比べて読んだり、要旨を捉えたりすることが難しい。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・自分が書きたいことを見付け、必要な事柄を集める力 ・文章の構成を考え、自分の考えが分かるように書く力 ・語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解する力 ・目的に応じて、複数の資料を比べて読んだり、要旨を捉えたりする力
		具体的な授業改善の方策	・授業の中で、自分の考えや思いを文章の中に組み入れられるような書き方を指導する。 ・学習の振り返りとして、学んだことや考えたことを言葉で表出する機会を設ける。 ・主語と述語の関係、修飾語のつながり、文章構成を意識させた指導を行う。 ・文章の書き方の工夫や筆者の考えの意図を汲み取って読むための視点を与える。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	○普段の授業を通して、文書の書き方を指導するとともに、文章を書く機会を確保したことで、文章の構成を意識して書く力も身に付き始めた。教材文を通して、修飾語や指示語を確認したことで、語句の繋がりを意識する力が少しずつ身に付いた。 ▲目的に応じて、資料を比べて読むことや、個人の力だけで文中から要旨を捉えたりすることに課題が残った。
令和6年度 第6学年	令和6年10月	学習に関する児童の実態・課題	▲条件がある場合に、その条件通りに考えを記すことが難しい場合がある。条件や情報が多いと読み取り切れない。 ▲筋道が通る文章となるように、文章の構成や展開を考えたり、自分の思いや考えが相手に伝わるよう工夫してまとめたりすることが難しい。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
		具体的な授業改善の方策	・自分の考えや事実などを書く活動を多く取り入れ、共有し、考えを深める場面を設ける。(その際に指定された文字数や段落構成を考えて書く機会を増やす。) ・文章を書く際に語句や表現を示し、自分の考えを豊かに表現できるようにする。 ・自分の考えをもつ時間や機会を十分に設けて、自分の考えと相手の考えを比較、検討して自分の考えを客観的に捉えられるようにする。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	

斤

々